

# 地場の食品産業と連携した取組事例調査

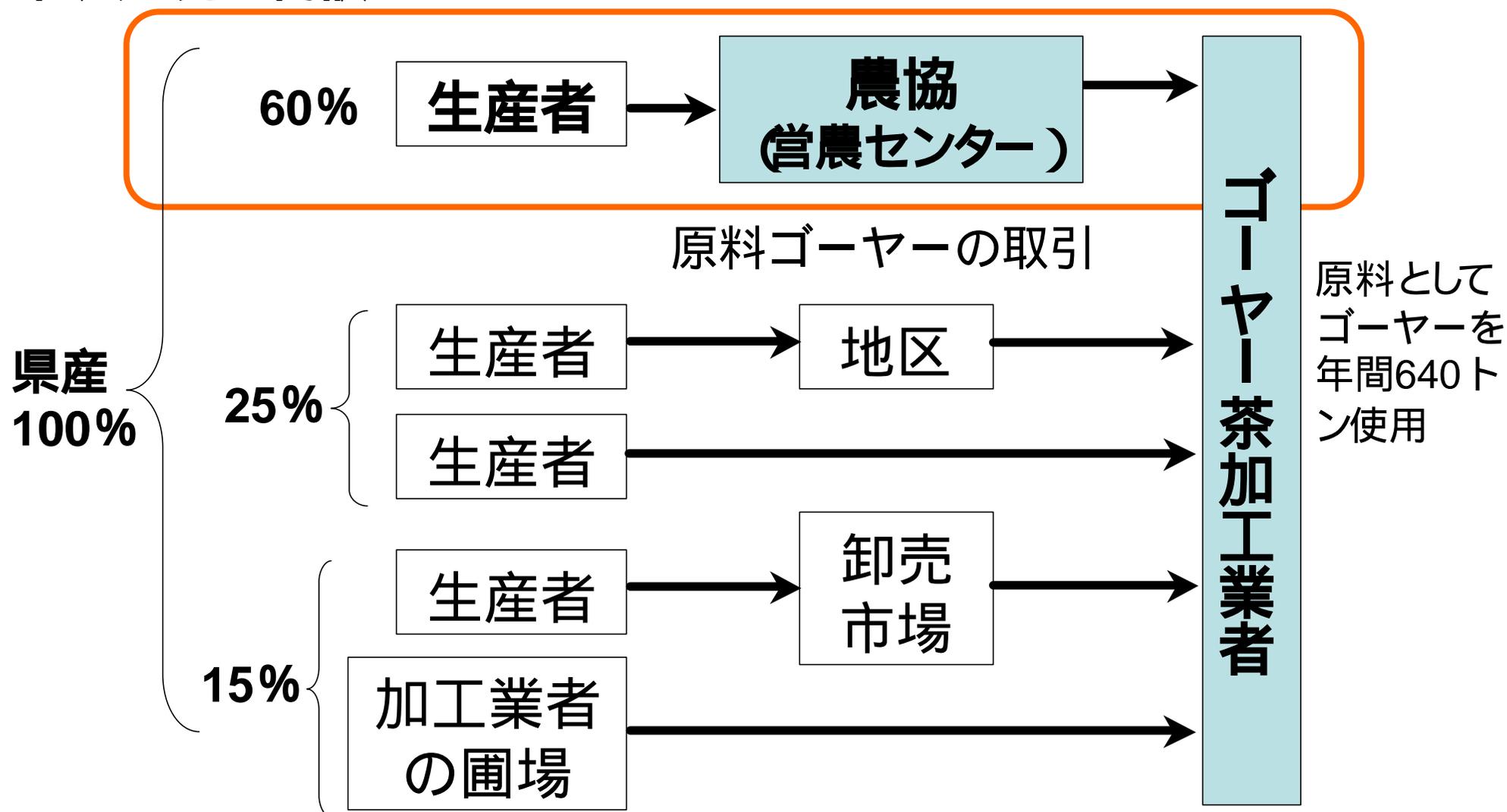
沖縄県名護市における  
加工業者による農協を介した地場産原料調達の実例  
農林中金総合研究所



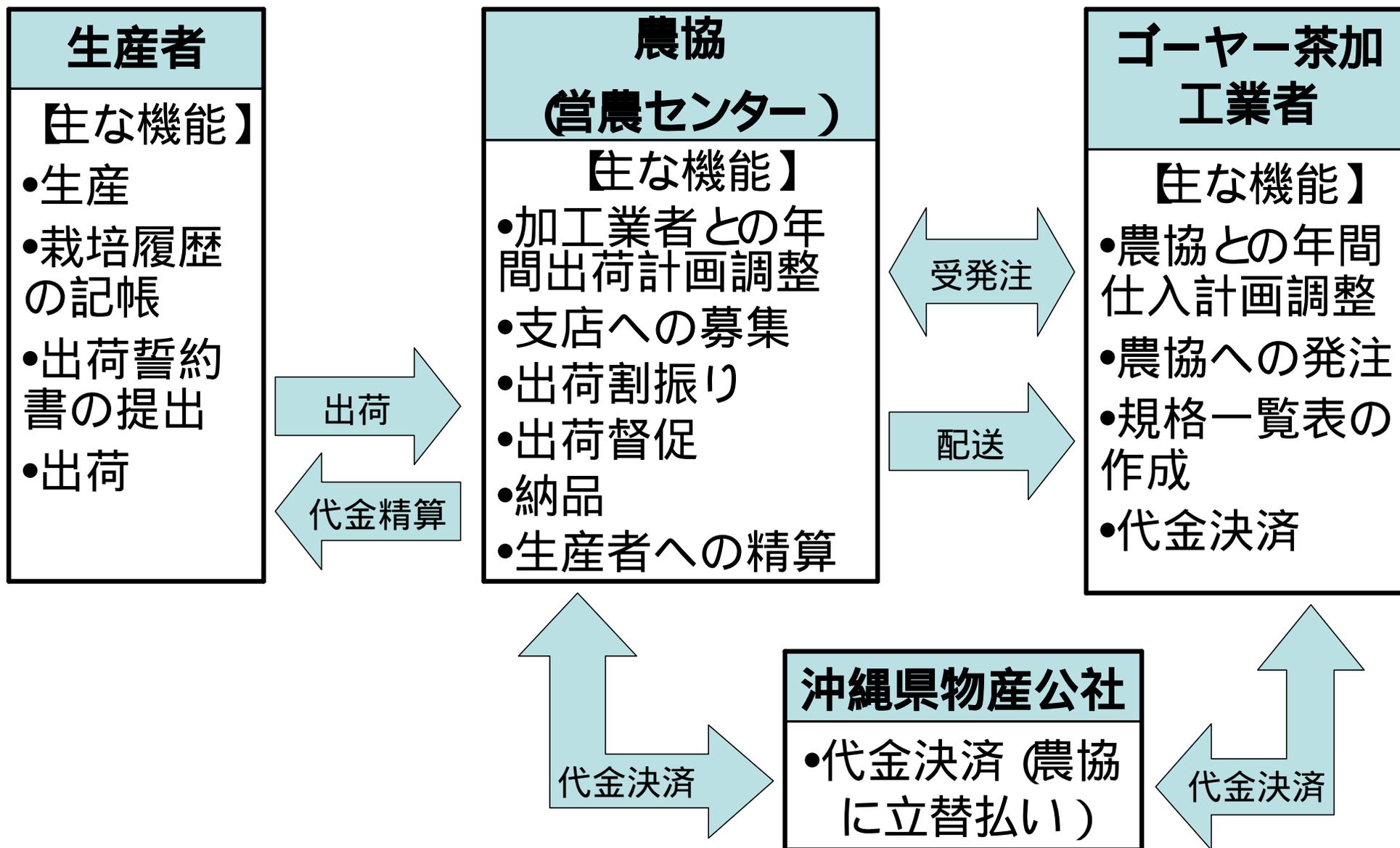
# 1.加工業者における原料ゴーヤー調達の概要

仕入れ先の内訳

本事例調査の対象



## 2.取引の流れ



### 3.地産地消によるメリットとデメリット

	加工業者	生産者
メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>•100%沖縄県産使用をアピールすることによって、増えつつある輸入原料との差別化が可能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>•いんげんの後作として輪作体系が実現</li><li>•所得増加</li><li>•単価は明確で、ここ数年固定であるため、所得の見通しができる</li><li>•規格外品の商品化による生産意欲向上</li></ul>
デメリット	台風による欠品	

## 4.取引が継続しているポイント

### 加工業者のニーズ

財務の安定のため

資金繰り改善

計画的な生産のため

安定的な仕入

利益確保のため

製造原価の抑制

沖縄県物産公社が  
仲介する

本事例での対応

農協が安定集荷対策

価格を  
明示して  
買取

生産者  
が  
誓約書  
を提出

農協員  
が  
巡回  
指導

歩留りの  
高い品種  
に  
限定して  
使用

選果作業  
の軽減

出荷基準  
の明確化

## 4 - 加工業者の資金繰り改善のための対策

原因

台風への備えとして1次加工品の1年半分の在庫

1年分の原料を3か月で調達

農協から生産者への精算は市場出荷分と同時(農協による立替払い)

加工業者からの農協への支払いサイトは最大でも2か月

結果

**加工業者の資金繰りが厳しくなる**

沖縄県の加工業者の共通の悩み

本事例での対応

沖縄県物産公社が農協に立替払いし、加工業者には分割請求(8か月)(手数料率4.0%、製品の販売面でも取引)

## 4 - 生産者からの安定的な仕入のための対策

仕入れが不安定になる一般的な原因

生産者が契約通りに出荷する  
インセンティブが低い

生産者の出荷責任が  
不明確

市況が上がると出荷量が減少する

生産者の手取りを明確化

農協が価格変動リスク  
をとらずに買取可能

加工業者が  
単価を決めて買取

生産者が  
農協に  
出荷誓約書  
を提出

農協職員が  
圃場巡回し  
生産者の  
出荷責任  
を喚起

本事例での対応

## 4 - 加工業者の製造原価を抑制するための対策

### 原因

水分の多い品種を使用

生産者が過熟果を出荷

歩留りが低くなる

工場での選果作業負担  
が大きくなる

水分の少ない品種に限定

生産者に出荷基準を明示

本事例での対応

加工業者が  
規格一覧表  
を作成

農協が出荷  
仕様書作成

## 5.残された問題点・課題

### 残された問題点

過熟果が5%程度混入

過熟果を  
取り除くために  
加工業者が  
作業員を配置

**加工業者の  
人件費の増加**

### 残された問題点

天候変動や市況高騰による仕入れの不安定

加工業者が  
備えとして  
一次加工品在庫を  
多めに保有

**加工業者の在庫に  
伴うコストの増加**

### 残された問題点

安価な輸入原料（一次加工品）の増加

輸入原料を  
使用した加工業者  
との競争激化

**県産の出荷量減少**